

# ニューステター 6月

2026. 6. 1発行



屋根リフォーム・塗装・カバー工法・葺き替え徹底比較についてお届けします。

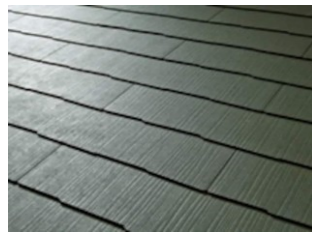


スレート屋根とは、薄い板状になった屋根材のことで、天然石タイプや、セメントをプレスしたタイプなど、様々な種類があります。今回は、一般的によく使われているコロニアル、カラーベストと呼ばれるセメントタイプのスレート屋根のリフォームのポイントをご紹介します。



↑  
HPのお問合せはこちら

## 1、スレート屋根のリフォームは、時期の見極めと工法選びが大切



スレート屋根のリフォームで大切なことは時期の見極めです。タイミングを逃してしまうと、のちに多額の費用が必要になってしまうことも少なくありません。また方法を間違ふことで、雨漏りの原因になったり、更に費用がかさむこともあります。

そこで今回は、スレート屋根の寿命を知り、最適なリフォーム方法を築年数別にご紹介、それぞれの工法のメリット・デメリットをご紹介します。リフォームの方法は主に3種類。塗装、カバー工法、葺き替えです。まずは築10年目程度で行う塗装からご紹介します。

## 2、築10年目：スレート屋根の塗装リフォーム



スレート屋根は築10年を過ぎる頃から、表面の劣化が始まります。汚れやコケの付着、色あせ、割れや反りなどが起きることもあります。また棟の下地が腐食して、板金を止めている釘が浮いてくることもあります。

スレート屋根にとって築10年目は大事な最初のメンテナンスの時期です。まずは内部の腐食が無いか点検、ズレや割れは修理をし、塗装リフォームをしておくといでしょう。一番の目的は、スレート屋根の表面の耐久性をアップさせ、色を美しくすることです。

屋根塗装はあくまでも表面のことで、雨漏りを止めたり防水性能を上げることはできません。性能を確認するためには、事前に点検を行ない、**下地の様子を確認することが肝心です。中が腐っている、表面だけキレイにしても意味は無いのです。**

## 3、屋根塗装が雨漏りの原因になることも



古いスレート屋根は人が歩くだけでも割れることもありますので、劣化が進んでいる家の場合、次の葺き替えか建て替えまでそのままにしておくほうが良いケースもあります。

また屋根塗装には、水の道筋をふさがないよう「縁切り」という作業が必要です。縁切りが不十分だと、水が内部に入り込み雨漏りや内部腐食を起こすこともあります。的確な判断と工事をするためにも、リフォームの際は、屋根リフォームの実績がある業者を選びましょう。

## 4、築25年目：スレート屋根のカバー工法か、葺き替えでのリフォーム

スレート屋根の寿命は**築30年程度が目安**です。25年を超えると、割れや反りなどが起きはじめ、材料の劣化が進みます。この時期になったら塗装は避け、そろそろカバー工法か葺き替えでのリフォームを検討しましょう。

- ・カバー工法とは、既存の上に新たな屋根材を乗せて二重にすること
- ・葺き替えとは、既存を撤去して新しい屋根材を乗せること

## 5、カバー工法による屋根リフォームのメリット・デメリット



カバー工法によるリフォームのメリットは、古い瓦の解体や処分が不要なところ。屋根の解体には大きな音やホコリが立ちやすく、廃材処分にもかなりの手間と費用が掛かります。その点カバー工法なら、それらの手間を省けるので、工期が短く費用も節約できます。廃材が少ない分エコなリフォームとも言えます。



カバー工法のデメリットは、かぶせた分、屋根が重くなること。その分耐震的に不利になります。カバー工法用の屋根は概して軽いのでそれほど大きな負担にはなりませんが、耐震性能に不安がある場合は、事前に確認をしておきましょう。

**ガルバリウム鋼板製のカバー工法用の屋根材。様々なデザインがある。**

## 6、葺き替えリフォームによるメリット・デメリット



葺き替えリフォームのメリットは、表面の瓦だけでなく、下に敷いてある防水シートも交換しますので、全体を健康に保つことができることです。また今より軽い屋根材を選ぶことで、耐震性を向上させることができます。

葺き替えのデメリットは、解体工事と廃材の処分に手間と費用が掛かることです。解体による音やホコリの問題でトラブルが起きることもあるので、リフォームには細心の注意が必要です。

**ガルバリウム鋼板に天然石を吹き付けたもので、重さはスレート瓦の約1/3。瓦調デザインで重厚感がある**

また今と違う種類の屋根材を選ぶ時は、勾配にも注意が必要です。葺く瓦の種類によって必要な勾配は違います。勾配が緩すぎると雨漏りの原因になることもありますので、今の家にはどの屋根材が向いているのか、リフォーム業者とよく相談しましょう。

## 7、屋根と雨どいは10年毎の定期点検が大切



台風の翌日は、リフォーム業者の電話が鳴りっぱなしになるほど緊急の依頼が増えます

多いのが、屋根、雨どいに関するもの。劣化が進んだ屋根板金が風で飛んでご近所に迷惑を掛けてしまったり、雨どいが外れてしまったりすることもあります。

また屋根表面はキレイでも中に水がしみ込んでいるケースもあります。家の中に水が垂れてくれば

雨漏りとわかるのですが、軒先に流れ気付きにくい雨漏りもあります。このような状況を放置すれば、構造部分が腐食し、補修費用がかさみます。

**屋根と雨どいは10年おきに点検をし、傷んだ箇所はその都度メンテナンス、いつも健康に保っておくことが大切です。**

**株式会社 渡辺組**  
本社 海津市海津町高須町720-1  
0584-53-0174  
E-mail: info@watanabegumi-kaizu.com  
URL: http://www.watanabegumi-kaizu.com/

**土木建築  
リフォーム**

\*毎月皆様の暮らしのお役立ち情報をお届けしています。何かお気付きの事や知りたい事などございましたらいつでもご遠慮なくお申し付け下さい。皆様のご意見ご感想を元にお役に立てれば幸いです。